

今昔

いにしへの繁栄をしのばす古社・名刹



※現在地の住所と現況写真の撮影地は、資料に基づき推定したものです。
※左の絵は原本を一部加工、着色しています。

➤ の絵は、尾張名所図会にある名古屋の北部にある味鏡神社、天永寺、味鏡川を描いたもので味鏡川(庄内川)左岸から味鏡方向を望んだものです。

味鏡神社は、度重なる庄内川の氾濫等で伝承は不明ですが、祭神に物部一族の祖神である宇麻志麻治命のほか6神が祀られ、かつては6所社とも言われていました。

味鏡地区の東部、南部一帯は、古墳の群集地でかつては100基以上あったといわれこの地を治めた豪族の繁栄がしのばれるが、現在、味鏡には原形をとどめている古墳はなくなっています。

天永寺は、味鏡山護国院天永寺といひ奈良時代に僧行基によって創建されたと伝えられています。山号は、味鏡の地にきた行基が、用水池を掘った時に古鏡が発見された伝承にちなんで味鏡山とつけられたといわれています。また、護国院の本尊は、薬師如来であったことから当初、薬師寺と称していましたが、948年に大洪水によって流失したため1111年に西弥上人によって再建され、寺号を薬師寺から現在のように改められました。戦国時代には水害や兵火により衰退したが江戸時代に再建されています。

この図会にある大河が、味鏡川(現在の庄内川です。)で、この橋は、成願寺から味鏡に至る味鏡の渡し付近の様子です。ここは、東大手から味鏡、小牧宿、善師野宿を通り中山道に至る尾張藩が整備した木曾街道(上街道、稲置街道、小牧街道などと言われる。)にありました。渡しは、3月から9月の間は船による渡し、9月から3月の渇水期には仮橋がかけられていました。

また、図会の時代には、成願寺村などは矢田川と庄内川にはさまれており再三の水害に悩まされていたことから、昭和7年に庄内川に並行する形に矢田川の付け替えられており、当時の様子はいかがいえることはできません。

◆関連資料 * ()内はまちづくりライブラリーの請求記号です
「尾張名所図会后編三」岡田啓/著愛知県郷土資料刊行会(Sc-ア)
「北区の歴史」長谷川國一/著愛知郷土資料刊行会(Sc-ア)
「北区誌」北区制50周年記念事業実行委員会(記念区誌編さん委員会)/編
北区制50周年記念事業実行委員会(2B21-94)

「尾張の街道と村」桜井芳昭/著(Sc-サ)
「名古屋市楠町誌」名古屋市楠町誌編纂委員会/編
名古屋市楠町誌刊行会(2B21-57)



味鏡渡し付近の様子



味鏡神社、天永寺